

経営学部 リフレクションペーパー

2018年度 <前期>

教員氏名 大内 秀二郎
担当授業科目名 商学A (火曜5限), 流通システム論I (火曜2限・木曜6限の2クラス開講)
1. アンケート結果に対する総評 ①流通システム論I・火曜2限クラス (昨年度 8.5→今年度 8.2)、②同木曜6限クラス (昨年度 8.9→今年度 8.7)、③商学A (昨年度 8.3→今年度 7.8) と、いずれも評価が悪化した。アンケートの回収方法が昨年度とは異なる (今年度からユニパでのアンケート実施に変更された) ことから単純な比較は難しいが、受講者の満足度が低かったことを自覚して今後の反省材料としたい。 ①と③については、例年以上に私語の多さについての不満が多かった。特に③については授業担当者としても感じていたことであり、より意識的に、授業の進行をたびたび中断するようなことになったとしても静粛な授業環境の保持を優先すべきであった。②も評価は若干下がっているが、これについてはさほど大きな変化ではなくほぼ例年通りであったと捉えている。(※ カッコ内の数値は各科目の10点法による評価の平均値)
2. 授業を行う上で工夫した点、良かった点 例年と同様に、流通システム論Iでは板書スタイル、商学Aではパワーポイントのスライドショーを活用したスタイルで授業を行った。流通システム論Iの自由記述欄においては、「説明が分かりやすい」、「映像資料があって退屈しない」、「授業に対して興味を持てた」など授業のスタイルに対する好意的なコメントが多かった。昨年は散見された「字が小さく黒板が見にくい」、「黒板の字を下に書きすぎて見づらい」などの板書に対する不満は、今年度はなかった。 商学Aでは、ユニパの小テスト機能を活用して毎回の授業ごとに復習テストを実施するとともに、今年度は、その受験履歴 (正解・不正解は問わない) を初めて成績評価に反映させた。昨年度は概ね3-4割に留まっていた解答率が今年度は8-9割まで上昇したことから、成績評価に反映させることで復習の習慣の定着が進んだものと考えられる。もともと、正答率が極めて低い (問題を読まずに適当に解答した、あるいは未解答のまま提出ボタンだけ押した) と思われる学生も少数ながら存在しており、運用においてなお改善の余地があると考えられる。今回の授業評価アンケートの回答において、これらの取り組みに関する感想や意見が全くなかったのは残念だった。
3. 今後の改善点 上記1.にも記した通り、今年度は全般的に授業評価が良くなかった。受講者の学習意欲を削いでしまうことがないように、これまで以上の熱意を持って授業に臨み、学生が思わず引き込まれてしまうような講義を実施したい。
4. 学生へのメッセージ アンケートへのご協力、ありがとうございました。今後の授業改善の参考にさせていただきます。